

町ぐるみん白岡「だより」

町ぐるみんの子育てをめざす

地域の学校支援活動と子どもの成長

市内の各小・中学校では、「学校応援団」の方々が様々な分野で、子どもたちと学校を支援する取り組みを展開しています。

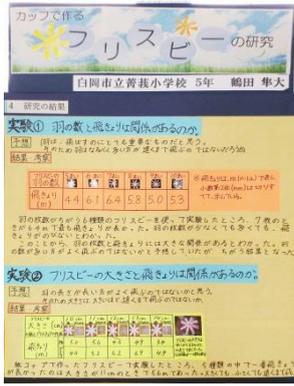
近年、コミュニティ・スクールという考え方が急速に広がる中、地域と学校の関係や学校・家庭・地域の連携の一層の強化が求められています。

今回は、地域の学校支援活動と子どもたちの育ちとの関係や支援する地域の方々の思いに注目してみました。

楽しみながら学ぶ

青葉小学校五年 鶴田 隼大

ぼくは転校後、初めてのサマースクールにうきうきする思いで参



鶴田さんの研究の成果

加しました。サマースクールでは、切って羽根を作った紙コップを二つ重ねてできるフリスビーを作りました。羽根の切り方など応援団の方が丁寧に教えてくださったので難しさもありましたが、楽しく作ることができました。一生懸命作ったフリスビーが飛んだ時はとても嬉しかったです。それと同時に「もっと遠くまで飛ばしたい」と思い、夏休みの自由研究の課題にしました。

自由研究では、羽根の数、材質、大きさの三つの視点から一番飛ぶ条件を探そうとしました。条件の違うフリスビーを多く作るの大変でしたが、少しでも遠くへ飛んだ時は嬉しく、実験を楽しむことができました。一番飛ぶ条件がわかっ



た時は達成感でいっぱいでした。これも楽しみながら学ぶことの大切さを教えてくれた応援団の方々のおかげです。

今後もこの楽しみながら学ぶ姿勢を大切にして様々なことに挑戦したいです。

やりがいを感じる応援団活動

青葉小 学校応援団 南 寛男

今年の自由研究の作品の中に「体験サマースクール」の遊びを題材とした発想力豊かなすばらしい作品があり、五年生の代表として白岡市の科学展で金賞を受賞し

たとのお話を校長先生から伺い、作品を見せてもらいました。

研究は、羽根の枚数、材質、大きさなどを変えながら、一番よく飛ぶ条件を調べたもので、羽根の幅を同じにするためにコップの円周を糸で測り均等にするなど、作品を作る中で色々なアイデアが見て取れ、すばらしい実験だと感じました。これまで「サマースクール」を続けてきたかいたがあつたと、嬉しくなりました。

今までの「サマースクール」では、全学年で同じ作品を作った楽しんできましたが、今後は手伝っ



将棋教室の様子

な か ま

白岡将棋愛好会

白岡将棋愛好会のメンバーは、20名余り。皆、将棋が大好きで、テレビの将棋番組を録画しては、何度も繰り返し見て研究し続け、毎週日曜日には公民館へ行き、将棋を楽しんでいます。

公民館の将棋教室や大会では、小学生たちとの対局も楽しみます。孫のような年代の子どもたちとの対戦で元気をもらったり、礼儀作法を教えたりしながら熱い勝負に一喜一憂しています。

今、将棋界は、中学生棋士藤井聡太6段の活躍にわいていますし、将棋を題材にしたアニメやゲームも流行っています。これを機に、子どもたちももっと将棋に興味をもってくれるといいと思っています。

私たちは、これからも将棋を愛し、地域を愛しながら子ども達と将棋を指し続けます。

将(まさ)に将棋に感謝です。





平成6年から毎年、送り続けた雑巾は、すでに 108,000 枚を超えたといえます。近頃は、材料のタオルを集めるのに苦労されているとのことでした。

白岡市老人クラブ連合会は、女性委員会を中心に、二十年余りにわたって、毎年市内の小・中学校に手縫いの雑巾を贈っています。リーダーの齋藤静江さんは、「地域ごとに集まって、おしゃべりしながら雑巾を縫うのは、とても楽しいし、学校の子どもたちのためにもなるなら一石二鳥です。」と笑顔で語ります。学校や子どもたちを支援する輪がますます広がることを期待しています。

楽しみながら支援しています

～白老連の取り組みから～

ていただける方を増やし、色々な発想ができる「体験サマースクール」にしていけたらと思います。鶴田隼大君には、「これからも色々なことに「興味」をもち「創造力」を膨らませ「なぜ」「どうして」「こうしたら」という心を持ち続けてほしいと思います。



子育て中のお母さんの悩みや疑問にお答えします。今回は、家庭教育アドバイザーの皆さんにお答えいただきました。

Q 幼稚園で流行っているアタマジラミの対処法を教えてください

A シラミというと、戦後の衛生環境が悪い時期に蔓延したコロモジラミのイメージから、不潔と受け取られがちですが、昨今、子どもたちを中心に発生しているアタマジラミは、不潔にはいるから発生するということではありません。

寄生したアタマジラミの成虫は、一日五〜六個の卵を産み続けますので短期間で広がる可能性があります。また、頭皮から吸血するので、子どもによつては強いかゆみを感じることもあるようです。発生は、幼児から小学校低学年に集中する傾向が見られます。その原因としては、体を寄せ合ったり遊ぶことが多いことや、距離をとらない集団昼寝、帽子やブラシ等の共用などが挙げられます。アタマジラミの対処方法 髪の毛の間を素早く動いて逃げるので、寄生が少ない段階では成

虫を見つけるのは困難です。最も簡単なのは、卵を探す方法です。卵は一見フケやヘアキャストと呼ばれる皮膚分泌物のように見えませんが、楕円形をしており、セメントのような物質で髪の毛にしっかりとくっついていきます。

駆除にはスミスリン剤と専用グシを用い、薬剤の用法に従って洗髪しクシですきとりします。

髪を短くしたほうがよいと思われる方もいると思いますが、重要なのはしっかりとケアです。嫌がる子どもの髪を無理に切る必要はありません。

また、衣類や寝具の消毒が必要な場合もあります。家庭でできる方法としては、熱処理が挙げられます。これには、六〇度を保ったお湯に五分間以上浸ける方法のほか、アイロンを使用したり、熱風乾燥したりする方法があります。

対象としては、帽子、クシ、ブラシ、タオル、ヘアカラーゴム、スカーフ、マフラー、枕カバー、シーツなどが考えられます。たくさんのもので一度に浸けると温度が下がりますので注意しましょう。

集団発生してしまつたら 前述のとおり、アタマジラミは不衛生で発生するわけではなく、子どもが集まる場所があります。ア

おやじの会交流会大成功

十一月十二日、「町ぐるみん白岡」の呼びかけで市内の小・中学校の「おやじの会」代表者が一堂に会し、初めての交流会が開催されました。「老舗」から発足へ向けて準備中のところまで活動状況は様々ですが、お父さん方がPTAとは異なる視点から学校や子どもたちを支援しようと集まりました。今後の発展に期待しています。

私たちは「町ぐるみん白岡」の活動を応援しています。

テクノパーク白岡協同組合
日産化学株式会社
白岡蓮田環境事業(協)
(有)西野商事
(株)ハイグレード
(株)サンワ環境開発

